



43:1 さて、その地の飢饉は激しかった。  
 43:2 彼らがエジプトから持って来た穀物を食べ尽くしたとき、父は彼らに言った。「また行って、われわれのために食糧を少し買って来てくれ。」  
 43:3 すると、ユダが父に言った。「あの方は私たちを厳しく戒めて、『おまえたちの弟と一緒にでなければ、私の顔を見てはならない』と言いました。  
 43:4 もし弟を私たちと一緒に行かせてくださるなら、私たちは下って行って、お父さんのために食糧を買って来ましょう。  
 43:5 しかし、もし彼を行かせてくださらないなら、私たちは下って行きません。あの方は私たちに、『おまえたちの弟と一緒にでなければ、私の顔を見てはならない』と言ったのですから。」  
 43:6 イスラエルは言った。「なぜ、おまえたちは、自分たちにもう一人の弟がいるとその方に言って、私を苦しめるようなことをしたのか。」  
 43:7 彼らは言った。「あの方が私たちや家族のことについて、『おまえたちの父はまだ生きていますか。おまえたちには弟がいるのか』としきりに尋ねるので、問われるままに言ってしまったのです。『おまえたちの弟を連れて来い』と言われるとは、どうして私たちに分かったのでしょうか。」  
 43:8 ユダは父イスラエルに言った。「あの子を私と一緒に行かせてください。私たちは行きます。そうすれば私たちは、お父さんも私たちの子でもたれども、生き延びて、死なずにすむでしょう。」

43:9 私自身があの子の保証人となります。私が責任を負います。もしも、お父さんのもとに連れ帰らず、あなたの前にあの子を立たせなかったら、私は一生あなたの前に罪ある者となります。  
 43:10 もし私たちがためらっていなかったなら、今までに二度は、行って帰れたはずですよ。」  
 43:11 父イスラエルは彼らに言った。「それなら、こうなさい。この地の名産を袋に入れ、それを贈り物として、その方のところへ下って行きなさい。乳香と蜜を少々、樹膠と没薬、ピスタチオとアーモンド、  
 43:12 また二倍の銀を持って行きなさい。おまえたちの袋の口に返されていた銀も、持って行って返しなさい。おそらく、あれは間違いだったのだろう。  
 43:13 そして、弟を連れて、さあ、その方のところへ出かけて行きなさい。  
 43:14 全能の神が、その方の前でおまえたちをあわれんでくださるように。そして、もう一人の兄弟とベニヤミンをおまえたちに渡してくださるように。私も、息子を失うときには失うのだ。」

ヤコブは状況に対する理解力も衰えているようです。「あなたがたは…ひといめに会わせるのか」とすべてが自分の身近にいる人のせいであるかのように感じています。  
 しかしここでルベンだけでなくユダも犠牲を払ってまでも事態を解決しようと、父ヤコブを説得しようとしています。リーダーとして様々な面で衰えている父ではあっても、あくまでも尊重していることによって、群れの平和に貢献していたと言えるでしょう。もしも父とも敵対し内輪もめしていたら、新たな問題を抱えてしまったでしょう。

またそのようなユダの真実が父ヤコブの心を動かしました。ここに来てヤコブはようやく事態の解決のためには、ただ恐れているだけではいけないと悟ったようです。ここで彼の贈り物のアイデアは、かつてエサウとの和解のために贈り物を用意したことを思い出させます。「全能の神が」と主に委ねて、現実を直視し、決心したときには、その人に与えられた賜物も生かされるのではないでしょう。

ききんという外的な不遇、それに対処する共同体の一致の必要、しかし過去に起こった罪や争いなど、困難には1人では乗り越えられない問題が重なって困難は存在します。家族、夫婦、教会といった共同体が、解決を必要とするときには誰かのせいや責任にするのではなく、それぞれに与えられた、神様からの課題を謙遜に認め、クリアしてゆく必要があるのです。

- ①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）
- ②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）
- ③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）
- ④この世にあって何を実践しますか？

